

委員長 若干時間前ですけれども、準備ができたようですので再開いたします。

(14時18分)

款別の質問は終了いたしましたので、一般会計予算の全体を通じての質問と総括的な質問事項がある方は挙手をお願いいたします。

井上委員 この定例会の最初にですね、町長のほうの所信表明がありました。その中でですね、所信表明の3ページですね、子供から高齢者とともに成長する町、チルドレンファースト・ネクストから子供・子育て大応援と題して予算編成を行いましたというふうな記述がございます。これにつきましてですね、チルドレンファーストの関係で、学童保育、給食費等々の無償化等々でありましたけれども、高齢者と…子供から高齢者とともに成長する町の予算編成、チルドレンファーストを除くとですね、こういったものがこの当初予算の中に編成をされているのかが読みきれませんでした。そこについてですね、予算編成の担当者、所管課があれば所管課のお考えを伺いたいと思います。

2点目としましてですね、今のところとも関連するんですけれども、所信表明の中でこうやってうたわれていますが、みやま運動広場のですね、周辺整備としては、3億3,800万というふうな事業規模での整備事業が行われています。議会としましてもですね、現場をですね、確認をしてきました。そこでですね、今、このみやま運動広場に隣接をしている場所のですね、遊具、ベンチは整備しないのかというふうなお話をお聞きしたんですけれども、7年度はですね、その辺がないと。なぜそういう片方だけの整備によってですね、せっかく子供たちが遊ぶ広場、遊ぶ遊具の整備に対してですね、どうお考えがあるのか。その2点をお伺いをいたしたいと思います。

参事兼政策推進課長 予算編成ということで、私のほうから説明をさせていただきます。チルドレンファースト、いわゆるネクストということで、4年目を迎えるチルドレンファースト事業で推進すると。まずですね、子ども・子育て宣言ということで、本年度その宣言を迎えるに当たって、8つのゼロ、子供がまずですね、安心して住める環境をつくる。それによって施策、高齢者事業をやっているからとかじゃなくてですね、子供たちが安心して住むことによって、その子育て世代とし

て、子育て世代が高齢者を支えていくというような展開をするという目的で、このチルドレンファースト・ネクスト、子ども大応援という事業で予算編成をさせていただきました。まずはですね、そういう環境をつくることによって、高齢者のほうの施策等も含めてですね、多くの方にみんなで支える町というところがこのチルドレンファーストの趣旨でございますので、議員御指摘のとおりですね、高齢者の施策、何をやったかではなくてですね、まず子育て世代、世代ですね、世代また世帯が安心して住める環境をつくり、そこからですね、高齢者を支える展開にすると。そこにコミュニティも生まれてくるということで、安心・安全な事業として取り組んだものでございます。私のほうは以上でございます。

観 光 経 済 課 長 2点目のスポーツツーリズム推進事業、スポーツツーリズム推進拠点整備事業につきましては、これまで説明してきた現場で確認をしていただいたとおりでございますが、現状では来年度、遊具・ベンチの整備はございません。ですので、令和9年度以降が基本でございますが、来年度の事業の執行状況等を見ながら、また御相談させていただきたいと思います。以上です。

井 上 委 員 もう一度確認をですね、させていただきたいと思いますが、高齢者とともに成長するというのは、子供、チルドレンの親が高齢者を支えていくということが主体だというふうに理解をしました。予算編成を行いましたというふうに題する限りはですね、やはり新しい施策なり、高齢者を思う予算が必要ではないかなというふうに思いましたが、ないということです、それだけでというふうなことでよろしいですか。の確認です。

2点目のほうですね、寄みやま運動広場のところの公園遊具・ベンチの修理は、令和9年度というふうに言われたんでしょうか。せめて再来年度ですね、令和8年度の整備の予算をですね、取っていただけるよう、それがですね、近隣に住む方たちで、やはり子供はずっと家の中で遊んでいるものではなく、やはり外でですね、元気に、夏も冬も元気に体を動かすということが主体かと思うんですけども、その遊具・ベンチがあるところ以外はですね、すばらしい施設になるわけですね。ぜひ令和9年度と言わないでですね、令和8年度

に何らかの形で実施ができるような要望を行いたいと思いますが、お考えがあれば伺いをしたいと思います。よろしくお願いします。

参事兼政策推進課長 先ほどですね、高齢者施策はないというふうにちょっと言われたんですけど、そういうことではなくてですね、高齢者の事業につきましては、例えば新たにですね、高齢者移動確保、いわゆるタクシー助成とか、さらにそれを200円から300円にするとか、そういう事業ももちろん安心・安全で子供とともにというところは考えております。また、権利擁護、終活支援ですね、そういう社協さんをお願いをして、さらにそういう部分も手厚くすると、こういうのも含めてですね、こういうのを含めてチルドレンファーストの事業として私は考えておりますので、施策をとにかく考えないといけないとか、そういうふうには私は考えておりません。以上です。

観光経済課長 先ほどちょっと言い間違えまして、令和8年度の予算編成に…ていきたいと思えます。

井上委員 年度で予算を努力しますと、予算編成に努力をされると。

委員長 回答よろしいですか。

井上委員 分かりました。何となく高齢者のほうはもっと言いたいですけどもね。以上で終わります。

委員長 ほかに委員のほうから質問ございますでしょうか。よろしいですか。

最後に議長、何かありますか。

議長 3点ほどかな、ちょっと気になることがありますので。何人かの方がね、指摘をされているようなことも、また重なりますが、ちょっと横断的に少し指摘したいことがあります。

まず、シティプロモーションですね。55ページかな、を中心に。これは予算概要などでも去年と同じ文言が繰り返されているなという印象で、先ほどどなたかが質問されていて、シティプロモーショングッズを開発して、ふるさと納税につなげていって、それに関しては効果が出ているというようなお答えがありまして、そこはひとつ、ああよかったなとは思ったんですが。ただ、ちょっと気をつけなきゃいけないのは、ちょっと計算しただけでも、このふるさと応

援基金の経費とかも結構かかっちゃっているんで、もしこれ、これを経費に入
れてしまうと、50%過ぎちゃうんじゃないかなと、ちょっと心配しちゃったん
ですが。これはその経費の計算には入らないということで理解していいのか、
そこはちょっと確認させてください。

いずれにしても、そこの部分は頑張っているんで、まあまあと思ったんです
が。例えばお隣の町を例に出してもいけないなとは思いますが、田舎モデ
ンというね、非常に強力なコンセプトを何年か前から打ち出して、それがかな
り、あまねく受け入れられて、移住にも非常にイメージアップになるという、
それを見ていると、うちの町はそういうものに匹敵するような、何かアピール
できる、アピールできる材料、すごくいっぱいあると思うんですね、今回の予
算の中にも。なのに、その何ていうか、訴える、受け入れられる、万人にすっ
と落ちるコンセプトがいまひとつ出てこないというのが、ちょっとこういった
シティプロモーションを展開する中で、毎年繰り返されて終わってしまってい
るというのが、非常に惜しい感じがします。そういった、せっかくこのシティ
プロモーションに予算をかけて、しかもこの間おっしゃっていたことでは、社
会増になっているというような、コロナ禍、苦しかったのが、それが少し社会
増に転じたというところも聞いたのでね、せっかくそういう波が来ているとい
うところでは、何かそういった、いろんな方にこの町のイメージがぱっと浮か
ぶ、そういうシティプロモーションをかけていく、そういう戦略を持ってい
てもいいのではないかと。何かその辺がはっきりすると、またターゲットがはっ
きりし、それによってまた情報も発信する方法も変わってくると思うんですよ
ね。何かそういったところを意識しながら、もうちょっとこの辺の予算の使い
方はブラッシュアップできるのではないかなというような感じがします。そ
の辺ちょっと答え方難しいかもしれませんが、ぜひちょっと考え方をひとつ聞
きたいなと思っております。

また、移住・定住に関して、全体では社会増になってきたという、すばらし
い取組の結果が出ていると。一方でちょっと寄が奨励金を去年から始めている
けれども、それを使ったケースがまだゼロだというふうなこともお聞きしまし

た。やはりこれも、先ほど井上議員がおっしゃったことですが、せっかくあれだけ人工芝がきれいになった、そして今年も非常に大きなお金をかけて周辺を整備していくという姿勢、予算を打ち出しながら、一番すぐそばにあるベンチと遊具があのままというのは、何かちょっと。井上議員はお優しいのでね、今年度はしょうがないとおっしゃってくださったけども、私はしょうがないと思いません。せっかく人が来るのが分かっているのに、あんなみすぼらしいままでいいのかというのがまず1つと、あと、これに関しては人工芝問題で去年、令和6年度前半はすごい住民を半分にしてしまったような議論が起きた、そういうマターでした。その議論の意義、それをもう少し考えていただきたくて、結局あの方たちも子供たちが遊ぶ場をすごく訴えていられたと思うんですよ。だから、その辺のところの意義を素通りされちゃったというのが非常に悔しいというか、これだけすばらしいものをつくりながら、一番目につくところですよ。あのままでいいわけがないと私は思います。来年度と言わず、今年度何とかしてほしいです。特にあのベンチなんて、座ることもできないような傷み方ですよ。応援に来た家族の方が、あれじゃ本当に気の毒ですよ。

それから、中津川議員も本会議でおっしゃってくださったことですが、それを整備する、周辺整備をする中で、地元の声をよく聞けとおっしゃってましたよね、本会議で。寄の活性化協議会の意見だけではなく、協議会に入っていない方も、先ほど言った議論にはいろんな方が声を上げたと思うのでね、広く意見を聞いて、周辺整備をぜひ進めて、よりよいところに変えていきたい。いってほしいと思いますので、よろしくお願いします。ちょっとそれも、どんなお考えがあるのか、先ほどのシティプロモーションもちょっとね、答え方も難しいかもしれないけど、何かしら回答を聞けるといいなと思っております。

あと、現地視察見たときに、お風呂ですね、管理センターのお風呂も改修するんだとおっしゃっていて、それもすごい、いいことだと思っておりますが、まきにすればどうかななんて、ちょっと思ったりしたんですけども、何かちょっとね、担当の方はなかなか管理も難しいかもしれないみたいなことをおっしゃっていたんですが、せっかくね、NPOも立ち上がっていますのでね、まき

の供給先を常に見ているようなことも聞いてますので、その辺もちょっと相談をされたらいいんじゃないのかなと思います。何しろ、せっかくいいことをやろうとして、すごく予算を使うことなので、どうせやるなら今のチャンスにやれることはあるんじゃないかなと思いますので、その辺よく地域の声を使っていたきたい、聞いていただきたいと思います。

また、幼児教育の在り方というのを、119ページですかね、幼児教育育成の何か予算が取られているようなんですが、これはちょっとどういう予算なのか、まず聞きたい、具体的に聞きたいというのもあるんですが、それと絡めて、やはり寄の人口増にはやっぱり小学校存続というのが最大の願いだということを町長も何回もおっしゃっていたんですが、幼稚園から手をつけなかったら、小学校がいきなり増えるわけがないと思うのでね、この幼児教育の在り方というのが、この寄にもちゃんとかかわってくる、そういう在り方を検討していただけるのかというのが、ちょっと聞きたいです。

あと最後には、南雲議員が指摘されていた生涯学習センター自主事業なんですけれども、南雲議員がね、せっかく提案してくださったこと、あれはぜひぜひやっていただきたいなと思っているんですが。サンリオがいいとか悪いとか、そういうことではないんですけれども、今回改組ですか、生涯学習課が独立するということなんですか。そうですね。その生涯学習課というのは、私、多分議員になってからずっとそういう系統の一般質問してきたと思うんですが、協働の最前線にいる課だと思うんですよ。結局、こういった自主事業に関しても、本当に遠藤君がものすごく頑張ってやっているのをいつも見るんですが、本当に職員だけじゃ広がらないんですよ。やっぱりそこは文化事業に興味のある町民って、決して少なくないと思うんで、ぜひ募っていただいて、協働ができるような、そういう仕組みを導入していただきたいなと。何しろ職員だけで抱え込むのは絶対に限界があると思いますので、ぜひそういったところを進めていただきたいなというふうに思っているんですが。ちょっとそういった、昔ありましたよね。文化センターの運営委員会ってありましたよね。発足当時ありますよね、井上さん。そういった仕組みが今なくなっちゃっているんです

よね。そういったところでも、ぜひ今回独立する体制になるということですから、積極的に町民の協働の力を引き出すというような仕組みをぜひ導入してほしいなと思います。

ちょっと答えにくいことばかりで申し訳ないんですが、そういうちょっと政策推進課長とか副町長とか、もし足りなければ町長とか、お答えをいただければと思います。

参事兼政策推進課長 まずですね、シティプロモーションという意見がございましたので、これに対しましては、先ほどのふるさと納税に、ためにこの事業をやっているものではなくてですね、シティプロモーションの一つの事業としてやってますので、たまたまそこにふるさと納税の品物が入ってくるという観点で、国のほうにはここは入ってない状況で提出をし、協議をして…

議 長 それがいいんですね。大丈夫なんですね。

参事兼政策推進課長 そこは協議をしているので。ほかの市町村でもね、結構やっているところがございますので、そういうのを参考にしながら、今、進んでいる状況です。が、総務省の見解も都度都度変わってきますので、その辺は情報共有しながらですね、これからも進めていきたいというふうには考えてございます。

そしてですね、先ほど開成町の田舎モダン、私も開成町に住んでいるので、積極的に瀬戸屋敷等を通じてですね、昨日もちょっと瀬戸屋敷のほうに行ってきたんですけども、やっぱり人をひきつけるネーミング等々をですね、やっぱり町のほうとしても考えるということもありまして、過去にはですね、子供を育てるなら流山とか、また今、奈義町のほうの首長さんとか、政策の課長さんとかですね、何でそんな出生率が高いんですかとか、いろんな情報を共有しながら、やっぱりあそこは子ども応援宣言、まず宣言をしっかりと、どういうふうに子供と携わっていくのかというものを広く町民にも周知をしてやっていこうということがございましたので、本年度にですね、向けて今、取り組むような形で考えてございます。

また、うちのほうでは情報発信推進員、若い世代の、方ですね、職員を中心に、いろいろなことを議論している中でですね、やっぱり今言われたような

ネーミングについてもですね、協議をしていくという形でこれから取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

そしてですね、先ほどのいろんな形でベンチとか、そういうもの…いいですか。

副 町 長 全体的なところにつきましては、ちょっと私のほうから。今の政策推進課長も言っていましたけど、なかなか私からするとかたいことを言ってるなという気がするんですね。開成町のね、町のキャッチコピーというんですかね、もっと松田町が分かりやすく、イメージしやすいようなキャッチコピーを作らなければならないかなと私も最近思っているんですね。各イベント、例えば桜まつりだと、山に春が来たとかですね、いろいろキャッチコピー、キャッチコピーをしているんですが、町全体を考えると、なかなかそういうものがない。これ、もっと簡単にですね、先ほどいろいろ申してはしましたが、もっと本当に皆さんが一言聞いたときに、あ、松田町ってこういう町なんだというイメージができるようなですね、ものも必要なんではないかなということで、もうちょっと軽く考えてもいいのかなという部分も私は思っております。その辺はですね、職員のアイデアだけではなくてですね、町の町民の皆さんのですね、声も聞きながら、ぜひこういうところもですね、掲げていければなというふうに考えます。

それと、寄の関係です。私もこの前、皆さんと一緒にいったときにですね、非常に目立っておりました。本当に恥ずかしい思いで、課長の答弁を聞いたときにですね、何をというところもありました。この辺はですね、私のほうもですね、来年度の予算の執行の中でですね、工夫ができるところもあると思いますので、やはりそういった部分を含めながらですね、慎重に執行をさせていただきたいと思います。

それと、やはり地元の方の意見を聞くというのは、これはもう当然のことでありましてですね、やはりあそこの施設がですね、やはり中心になって、寄の活性化並びにですね、人の賑わいというところも広がっていく部分かと思っておりますので、そこにはやはり地元の方々ですね、御協力も必ず必要になっ

てきますので、意見を聞かせていただきながらですね、一緒に進めていきたいというふうに考えます。

また、お風呂という中で、ボイラーというお話もございました。予算編成のときにですね、そういうお話もしてます。一つとしてですね、このようなやり方もあるんじゃないかという、詳細にそのときはですね、議論はしてないんですが、やはり予算編成の中でですね、そういう提案もですね、話をしながらですね、この予算を計上させていただいているというところはございますので、この辺はもっと詳細にですね、調査・検討いたしまして、執行ができるようであれば、そういう部分も計画をしていきたいというふうに考えております。

あとは、教育のほうは、すみません、教育課、委員のほうから。

教 育 課 長 それでは、まず幼児教育の、幼児期の育成環境の在り方に関する経費ということで、どのようなことをするのかと。まず前提として、御承知のように社会構造の変化などでですね、共働き家庭の増加、また幼児教育の無償化などで、ここ数年来、松田幼稚園、幼稚園を取り巻く環境というのが非常に変化しております。数年前までは、全学年2クラスだったものが、来年度はですね、年少・年中・年長、全て1クラスで、1クラスも10人台というようなところでですね、大変危機感を私どもも持っております。これは子ども家庭庁など、共働きの家庭が増えたことで、保育園にどうしても預けるとか、一方で幼児教育の無償化で、松田幼稚園でなくて、私立の幼稚園でも経費、親の負担を少なく預けられるというようなところもございますので、そういった最近、ここ数年来、子供たちの幼児教育の育ちを、育ちの環境というのが非常に変化しているというところを前提にして、今後町としてどういうふうにしていったらいいのかというのを検討して、まず根底にあるのは松田幼稚園、寄幼稚園もそうなんですけれども、寄幼稚園も今、クラス、全学年で6人なんですね、令和6年で。来年度は微減ですけども、5人になるとか、そういったことを総合的に現状認識から始めて、今後どういうふうにしていこうかと。というところを検討しようという経費でございます。

続きまして、生涯学習センターの生涯学習推進課、全協のほうでも御説明を

させていただきましたが、そのやはり前提にあるのが、我々の危機感であると。生涯学習というのは重要だけれども、やはりいろんなニーズとか、そういったもの、また一方で生涯学習センターの老朽化とかもございまして、いろいろ活用していただくのがなかなか難しいとか、そういうのもございます。そこにやはりてこ入れをする必要があるというところで、町のほうの姿勢として、生涯学習推進課という課を独立させていこうという背景がございました。まず、我々が危機感を持っているので、そういうふうにしましたと。今後はやはり議長がおっしゃられるような問題、課題がありますので、そこら辺をしっかりと議論していこうと、議論して対応していこうというふうに考えております。以上でございます。

委員長 ありがとうございます。職員の方につきましては、長時間にわたりまして一般会計予算の質疑に応答していただき、ありがとうございました。これを持ちまして質疑を終了としますので、退席してください。大変長時間にわたり、ありがとうございました。

（ 町職員 退席 ）